

- * 「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」（ガラテヤ5：22）「御霊の実」は9つ。「愛」「喜び」「平安」は神に関する事。「寛容」「親切」「善意」は人に関する事。「誠実」「柔和」「自制」は自分に関する事、の3つのグループに分けるのが分かりやすい。しかし、最初の「愛」はすべての実に関わってくる最も大切な実である。「愛」は他の8つのすべてを含むと言ってもよいだろう。
- * 「愛」。聖書の「愛」は「神の愛」であり「アガペー」と呼ぶ。兄弟愛の「フィリア」、自己愛、性的愛の「エロス」も神から与えられたものであり、大切である。人は生まれてからこの3種類の愛を経験する。アガペーの特徴は一方向的な愛。旧約のイスラエルの民が神に「選ばれ」「契約」の中にいた。今の私たちは神に「選ばれ、召され」「神の子」となった。これは神の一方向的な愛によるものである。「私の目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」（イザヤ43：4）このような足らぬ者でも選ばれ、キリストに出合わせてくださり、信じる者に永遠のいのちを与えてくださる。私が神を選んだのではなく、神が私を選んでくださり、神の愛にあずかるようにしてくださったのである。
- 神の愛は無償・無条件の愛。見返りを求めない、犠牲の愛である。あらゆる人を愛する愛であり、敵をも愛する愛である。イエス・キリストがその完全な愛を示された。十字架の愛である。また、神の愛は一時的ではなく、永遠に注がれる愛である
- * 「喜び」。「あなたがたの喜びの日、（中略）あなたがたは、あなたがたの神の前に覚えられる。わたしはあなたがたの神、「主」である」（民数記10：9～10参照）聖書の「喜び」の基本は、神に覚えられることにある。反対に主に忘れられることほど悲しいことはない。同じく新約の「喜び」は「主にあって喜ぶ」ことである。静かに、心の底からあふれて来て、自然に顔がほころぶような喜びが本当の「喜び」ではないだろうか。
- * 「平安」。「平和」とも訳すことができる言葉である。平和は先ず神との平和から来る。神との正しい関係がなければ平和はない。イエス・キリストは言われた。「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。」（エペソ2：14～15）キリストこそ平和そのものの方である。キリストと共にあれば平和は私たちの心のうちにあり、敵意もなくなる。